

Drug Information NEWS

薬がつくる えがお



薬剤部 医薬品情報室 (内線7723) Vol. 15 (2011年7月11日発行)

リスクマネジメント

外観・名称類似医薬品 (Look-alike, Sound-alike drug) ~注射剤を中心に~

先月の内服剤に続いて本号では注射薬での外観・名称類似について紹介します。当院で採用している注射薬の中で、名称が類似する医薬品の一例を表 1 に、外観が類似している医薬品の一例を表 2 に示します。これらの中には薬理作用が異なる組み合わせが多数あり、例えば循環器領域のミリスロール (血管拡張剤) とミルリーラ (強心剤) などが挙げられます。この他にも、表 2 に示すウログラフィン注のように外観が類似し、複数の規格がある組み合わせも多く、取り扱う際には注意が必要です。また、アンプル製剤などはデザインの制約があり、ノルアドリナリン注、ボスミン注、フェノバル注のように外観が非常に類似している例もあります。こうした医薬品の取り間違いによるミスが患者さんの不利益に繋がります。ミスを回避するためには、二者間で確認し合

表 1 名称が類似した当院採用医薬品の一例

名称類似の注射剤は、口頭での確認は誤認が生じます。紙面、画面での確認を、特に緊急時には複数回の確認が必要です。

アミパレン輸液 (総合アミノ酸製剤)	アミノレバン点滴静注 (肝性脳症改善アミノ酸)
アルブミン5%静注 (人血清アルブミン製剤)	献血アルブミン4.4%静注 (加熱人血漿蛋白)
献血グロベニン-I 静注用 (ヒト免疫グロブリン)	献血ベニロン-I 静注用 (ヒト免疫グロブリン)
サイレース静注 (ベンゾジアゼピン系麻酔導入剤)	セレネース注 (抗精神病剤)
ソル・コーテフ (ヒドロコルチゾン)	ソル・メドロール (メチルプレドニゾン)
ヒルナミン筋注 (精神神経用剤)	ヒルトン注射液 (TRH・プロチレリン)
メチロン注25% (ピリン系解熱剤)	メイロン静注7% (炭酸水素ナトリウム)
ミルリーラ注射液 (強心剤)	ミリスロール注 (血管拡張剤)

うことや、名称だけでなく規格・含量 (mg, %, mL など) をしっかり確認し、さらに声を出して指さし呼称を行うことが大切です。しかし、業務への慣れ、思い込み、業務の切迫などによって人為的なミスが生じることもあり、これらのミスを完全に防ぐことは困難です。

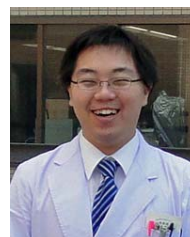
そこで、人為的ミス防止策の一つとしてピッキングマシンを導入することにより、従来の注射薬の計数調剤 (取り揃え) 業務を機械によって自動的にかつ正確に行えるようになりました。類似薬の取り違いを防ぐため、機械による監査システムを導入することは大いに有効であると思われます。今後も安全な薬物療法ができるように、システム化を図りながら医薬品の取り違いに注意し、業務を行っていきたいと思います。

表 2 外観が類似した当院採用医薬品の一例

ノルアドリナリン注 (血圧上昇剤)	ボスミン注 (アドレナリン)	フェノバル注射液 (鎮静・抗けいれん剤)
ケミスポリン静注用 (セフェム系抗生剤)	ユナスピン静注用 (ペニシリン系抗生剤)	
ソリューゲン F 注 (酢酸リンゲル液)	ヒシナルク 3号輸液 (輸液用電解質液)	
ウログラフィン注 60% (ヨード系造影剤)	ウログラフィン注 76% (ヨード系造影剤)	

Staff Interview

薬剤師 片山 智之



本年度より北大病院薬剤部に勤務することになりました片山と申します。現在は薬品管理室にて注射剤や輸液などの管理業務を行っています。学生時代の私の専門分野は有機合成化学というおおよそ臨床薬学とは遠い世界から来た為か、毎日が新鮮なことで、学ぶことだらけです。まずは早く業務に慣れ、一人前の病院薬剤師として勤務できるよう頑張っていきたいと思っています。

編集委員：石川修平、樋口一世、浅野逸郎、川岸 亨、笠師久美子